

7 環境・緑化部会の取組(1)

テーマ1:「循環型のまち・生ごみリサイクル」

「生ごみ」は、他のごみと比べリサイクル化や減量化の余地があるのでは？

リサイクル化や減量化が進むと…？

処理量削減による環境負荷の低減

ごみ置き場の美観維持

農作物への堆肥として活用

処理費用の削減

土に還し資源循環を体験

花などの植栽活動との連携



など

第2期区民会議の取組も継承し、区民の誰もが関われる「身近なエコ活動」として、ごみ減量やリサイクルなどについて考え、行動するきっかけにしよう。

● 具体的取組経過

(1) エコ啓発用パンフレット「エコのまち麻生」の作成・配布

* 第2期区民会議取組を継承。区内小中学校を中心に約2,800部配布。

(2) 麻生区生ごみアンケートの実施 (H23.6~8 回収:1,165枚)

* 生ごみリサイクルなどに対する区民の取組状況調査

(3) 横浜市資源循環局へのヒアリング調査 (H23.6.14)

(4) 第1回区民会議フォーラム開催 (H23.9.25 参加者105名)

* 生ごみ堆肥・肥料で作った花や野菜の写真展 (H23.9.12~25)

(5) 生ごみリサイクルモデル事業の実施 (H23.12~H24.3)



アンケート調査実施状況



第1回フォーラム開催状況



写真展の開催状況

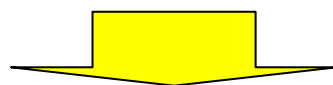
●生ごみリサイクルモデル事業とは？

【目的】

- ・区民が自家処理して作った乾燥生ごみを地域で有効活用して、資源循環させる。
- ・ごみの減量を通じ、焼却などに伴うCO₂発生を抑制し、地球温暖化防止活動の一助とする。

【実施の背景】

- ・生ごみアンケートの結果、ごみの減量になんらかの工夫をしている方・・・85%
- ・生ごみリサイクルをしている方・・・23%
⇒その内、できた堆肥を回収して欲しい方・・・14%



堆肥を使いたい人、使える人が生ごみリサイクルに取り組んでいる。



できた堆肥や乾燥生ごみの活用先があれば、取組が広がるのではないか。

【モデル事業の流れ】

【実施期間】 ・H23.12～H24.3.(第4土曜9時～11時) 計4回
【対象堆肥】 ・乾燥生ごみ ※H24.3月のみ完熟堆肥も回収

<区民会議委員が担当>

②区役所ロビーでの回収

- * 受付並びに引渡しの実施
- * 生ごみ処理機の展示など

当日持参

乾燥生ごみ・堆肥

①提供者

当日受け取り

③はぐるま工房
(完熟堆肥へ加工)

当初、家庭で出来た完熟堆肥を含め実施する予定であったが、「廃棄物処理法」や「肥料取締法」による規制があることがわかり、法律に抵触しない範囲で計画を変更。

④花の苗木などに有効活用

モデル事業実施状況



生ごみ処理機器展示状況



【まとめ】

これまで実施してきた取組結果などを踏まえ、より区民が生ごみリサイクルに向けた取組が進められるような環境整備や啓発方法などについて取りまとめを行い提言につなげていく。